

科目名	画像生理情報解析学演習			分野・必選別・単位数	専門科目 (臨床検査医学)	選択	2単位
担当教員	◎講師 崎原ことえ 准教授 田嶋明彦						
課程	博士前期	配当年次	2年	配当学期	通年	授業方法	演習
授業の概要	実際の症例から得られた画像生理情報について適切な判断を下すことができること、そして最新の機器の適切な活用法とその限界を説明できることを目標に、多数の症例と文献調査を通して、演習、データ統計処理を行う。必要に応じ実地指導を行う。						
授業の到達目標	①最新の機器の作動原理を説明できる。 ②機械操作のポイントと、データの理解から合理的な判断を選択できる。 ③検査機器の適切な活用法とその限界を説明できる。 ④症例の各種検査データを分析して疾患を説明できる。						
授業計画	回数	担当者		行動目標			
	1	崎原ことえ	講師	神経心理の検査法を実施できる。(1) KW:WISC			
	2	崎原ことえ	講師	神経心理の検査法を実施できる。(2) KW:WAIS			
	3	崎原ことえ	講師	神経心理の検査法を実施できる。(3) KW:K-ABC			
	4	崎原ことえ	講師	神経心理の検査法を実施できる。(4) KW:田中ビネー			
	5	崎原ことえ	講師	神経心理の検査法を実施できる。(5) KW:MABC2			
	6	崎原ことえ	講師	神経心理の検査法を実施できる。(6) KW:フロスティッグ視知覚検査			
	7	崎原ことえ	講師	神経心理の検査法を実施できる。(7) KW:SLTA			
	8	崎原ことえ	講師	神経心理の検査法を実施できる。(8) KW:WCST			
	9	田嶋 明彦	准教授	医用サーモグラフィーについて演習を行い説明できる。 KW:cross radiation, 左右差, 時系列差分, 負荷サーモ			
	10	田嶋 明彦	准教授	MRIの基礎について演習を行い説明できる。 KW:陽子, 巨視的磁化, 緩和時間			
	11	田嶋 明彦	准教授	MRIの臨床について演習を行い説明できる。 KW:T1, T2,			
	12	田嶋 明彦	准教授	眼球運動とベクション、オプティカルフローについて演習を行い説明できる。 KW:自己移動間隔, 錯視			
	13	田嶋 明彦	准教授	眼球運動測定法について演習を行い説明できる。 KW:フレンツェル, サーチコイル, 角膜網膜電位			
	14	田嶋 明彦	准教授	電気眼振図と眼球運動測定法について演習を行い説明できる。 KW:ENG, 赤外線CCD, VOG			
15	田嶋 明彦	准教授	いずれかの画像の臨床例について演習を行い説明できる。 KW:サーモグラフィ, MRI, VOG				
事前事後学修の内容およびそれに必要な時間	【事前学修】	指定したテキストの次回授業部分を事前に読んでおくこと。 次回の授業内容を予習し、用語の意味等を理解しておくこと。					
	【事後学修】	授業中の疑問点をまとめ、関連する文献等を利用し、次回授業までに解決しておくこと。					
	【必要時間】	当該期間に30時間以上の予復習が必要。					
教科書	随時指示する。						
参考書	随時指示する。						
成績評価の方法および基準	口頭試問80%、レポート20%						
その他履修上の注意事項	試験やレポート等に対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。 カリキュラムマップのDP2が、この科目と本専攻の学位授与方針との関連を示している。						